

進路対策委員会活動報告



全国高P連進路対策委員会報告

東北地区高P連進路対策委員長 嶺岸 若夫 (仙台向山高校)

今年の全国進路対策委員会は、「第7回高校生と保護者の進路意識調査」を実施しました。このアンケート調査の結果を、キャリアガイダンスという冊子にまとめました。高校生はもちろんですが、保護者の方にとって参考になりますので、ぜひご覧になってください。各学校へ3部配布されますので、ぜひ有効に活用してください。

反省点として、時代とともに聞きたい内容も変化するので、聞きたい項目をスリムにし、アンケートに応

えやすい内容にしていく必要があります。協力を頂いた生徒と保護者・学校関係者のみなさん、ありがとうございました。

また、第66回全国大会千葉大会の進路対策委員研究発表に向けて協議しました。進路対策委員会として分科会の発表がありますので、参加された皆さんにとって有意義な企画を考えております。内容については、参加してのお楽しみです。来てよかったと思われる分科会ですので、多くの皆さんが千葉大会へ参加してくださいようお願いいたします。



「進路対策委員会」の活動を終えて

東北地区高P連進路対策副委員長 藤田 考一 (仙台東高校)

東北地区高等学校PTA連合会 進路対策委員会の活動を終えて、今、ほっとしています。私にとって、はじめての東北地区の委員会ということで、これまでの活動経過や、活動の流れもわからないまま委員会に参加し、多少苦労もありましたが、みなさまのご協力をいただき、活動報告をまとめることができました。

「進路対策」と言っても、卒業後の進路が就職なのか進学なのか、大きく異なるので、簡単に語れるものではないと思います。でもいずれ仕事をし、生計をたてていくことに変わりはありません。

そのような中、8月に受けたキャリア教育に関する研修が、とても印象に残っています。

こどもたち一人一人が、生きる力をつけるために、今求められるキャリア教育とは？をテーマに研修した

ものです。自分らしく生きるために、サポートできることはないだろうか等、子供たちのこれからの進路への関心の高さは、みなさん同じということを感じました。

また、各県の委員会の方々と情報交換をできたことが、非常に有意義でした。この委員会を通じて得たものは大きく、私自身、たいへん勉強になりました。

最後になりますが、来年度もこの進路対策委員会が実りあるものになることを願っています。

1年間、本当にありがとうございました。



東北地区高等学校PTA連合会 平成27年度進路対策委員会

- | | | | | | |
|------|-----|--------------------|----|-----|------------------|
| 委員長 | 宮城県 | 嶺岸 若夫 (宮城県高P連会長) | 委員 | 秋田県 | 石嶋勝比古 (能代工業高校会長) |
| 副委員長 | 宮城県 | 藤田 考一 (仙台東高等学校会長) | 委員 | 青森県 | 山田 朋子 (八戸東高校会長) |
| 副委員長 | 福島県 | 和田 浩一 (相馬農業高校会長) | 委員 | 岩手県 | 山崎由加利 (山田高校会長) |
| 委員 | 山形県 | 荒木 良吉 (新庄神室産業高校会長) | | | |

福島県 **本県の進路対策事情** **和田 浩一**（相馬農業高校）



本県の進路対策は、他県同様に各校の独自性を重んじ、進められています。子どもたちの進路は就職と進学に大別されますが、ミスマッチからか早期の離職・退学という悲しい現実があります。どのようにしたら防止できるのかということが悩みです。

今年は、原因の一つとしてあげられる「コミュニケーション力」に着目し、リーフレットを作成し、高校2年生を対象に配布する予定です。子どもたちが相談する相手がなく、孤立してしまうことで離職や退学につ

ながることが多いように考えたからです。家庭が小さな声かけを積み重ね、保護者と子どもどうしのよりよい環境を作り上げ、保護者が進路についてよき相談相手となっていたいただければと考えております。

結びにあたり、本県も県北、県南、会津、いわき、相双の5地区に分かれ、地域ごとの考え方に差異があります。しかし、よきものはよきものとして、他校の活動をもっと積極的に知り、自校の進路対策の参考にしていただければと考えています。東北各県には、その県のフラッグシップ的な高校が存在します。まずは、その学校を紹介していくのも一つの方法かと思えます。

山形県 **家庭におけるキャリア教育の推進** **荒木 良吉**（新庄神室産業高校）



本県では県内高校の独自性を重んじて進路対策を行っています。今回は3校の取り組みを紹介して活動の報告とします。

【A校】
PTA研修会（6月）大学見学：「東北福祉大学」「東北学院大学」

保護者の感想として学生達の生き生きとした勉学に励む様子がみられ雰囲気も良く、環境・設備も整っていて、ますます子どもを進学させたいと思った。親子共々頑張りたいと思った。実際に見学に行き研修することで子どもへの理解も深まった。

【B校】
3年生のための保護者による面接練習（9月）
面接官：PTA評議員・町教育長・元PTA会長・副会長
本番さながらの緊張感の中、自己PRや志望動機な

ど、真剣に答え、説得力のあるたくさんのアドバイスを生徒がいただいた。

地域全体で支えている様子が見られ、子どもたちが地域で育てられている取り組みである。

【C校】
PTA研修会～講演会～
1年（7月・11月）外部講師による講演、進路指導主事による講演
2年（7月）河合塾仙台校講師による講演
3年（6月・11月）河合塾仙台校講師による講演、進路指導課による講演

演題は、「進路選択は自分の生き方を決めること」「大学入試に向けて、親としての心構え」等、親として子どもとどう向き合って将来の職業を見通した進学先を決めていくのかが見えて理解も深まった。

秋田県 **求人要請と県内進学ガイド** **石嶋勝比古**（能代工業高校）



秋田県の進路対策に関する取り組みは、関係機関への求人要請や会報等を通して進路対策の情報提供を行い啓蒙に努めています。

要請活動は、県知事を筆頭に県教育長、労働局長、校長、高校生、県高P連会長が「秋田県経済5団体」の代表と一堂に会し、地元志向の高卒者に希望する県内就職への道が開かれるよう要請しています。

また、県高P連と県教育委員会との「教育懇談会」を開催しており、その中でキャリアデザインや進路対策に関する事項も取り上げ情報交換を行っているところです。

情報提供に関しては、秋田県内の大学／短期大学／専門学校に呼び掛け、それぞれの学部・学科・コース、あるいは入試情報や在学生からのメッセージなどを紹介したガイドを発行。このガイドを県高P連会報に添えて全会員へ配布することで進路選択の参考にしていただき、県内での進学から就職までを見据えたキャリアデザインを思い描く一助になってくれたらと願うものであります。



各県の活動・委員の思い

青森県 **親へのキャリア教育** **山田 朋子**（八戸東高等学校）



本県では例年進路指導シンポジウムを開催しており、今年度も10月7日、県総合社会教育センターにおいて開かれました。これは各PTA相互の連携と保護者個人としての資質を高めることを目的としており、各校の進路対策委員をはじめとして126名の保護者や教職員等にご出席いただきました。テーマは「家庭におけるキャリア教育の推進～いかにして子どもたちを育てるか～」です。高校生が望ましい職業観や勤労観を身につけるために、いかにし

て子供を育てるか、そのために親としていかにして成長していくかが大きな鍵となります。これに基づき「大学人の立場から」「企業人の立場から」「親の立場から」発題いただきました。企業人の発題者は、起業された方でもあり、数々の苦労話の中にも働く喜びが感じられ、この喜びを見出すことができる人こそが充実したキャリアを歩めるのだと体現されているようでした。質疑応答でも氏への質問が多く、夢を持ち叶える力を持った子どもに育てたいと考える親の多さと比例するかのようで、これからの日本を創る子どもたちを育てる同志として頼もしくも思えました。

岩手県 **「本県の進路対策委員会の活動」について** **山崎由加利**（山田高校）



本県の進路対策委員会は、就職に関わって関係機関への要請活動と、会員全員へのリーフレット配付による啓蒙活動が主となります。

今年度においても同様に関係機関（岩手県商工会議所連合会・岩手県商工会連合会・ハローワーク・岩手県労働局等）への要請活動をする予定でしたが、出来なかったため、1、過去3年間の就職者数及び離職者数。2、離職理由（本人・企業）。3、企業の求める人材

とは。という項目で県内各ハローワークに調査依頼することにしました。事前打ち合わせをすると、岩手県労働局職業安定部職業安定課で対応していただくこととなりました。

私たち親は、自分の子どもが何を考え、何をしたいのか分からない部分が多く、また、どのように対応したらよいか迷ってしまうことがあります。是非、早期退職することがないようにリーフレットを活用して親子で働くことについて一緒に話し合いを持っていただければと思います。

宮城県 **「進路だより」を発行しました** **藤田 考一**（仙台東高校）



今年度の宮城県進路対策委員会では、各校からの「進路だより」の発行を中心に活動してきました。初回の委員会の会合では、「進路対策」というネーミングから、少し重たいイメージがありましたし、それぞれの学校で事情が異なるので、委員会の活動の成果がまとまらないのでは、と各校心配した様子でした。

そのような中、委員会での協議を進め、各校の実情、取り組みを「進路だより」としてまとめ、それを発行してはどうか、ということで、意見がまとまりました。「進路だより」は年3回に分けて計6通を発行し、県内全校に配布しました。

その内容は、盛りだくさんです。大学進学をテーマに、受験体験記やオープンキャンパスの情報を書いたもの、就職をテーマに、後輩へのアドバイスや就職試験の情報を書いたものなど、多岐にわたる情報となっています。

各校が持っている情報を、リーフレットという形で発信し、みなさんにわかりやすくお伝えすることができたと思います。

各高の事情に違いはあっても、子供たちのこれからの進路への関心や熱意は、みなさん同じですね。これから子供たちのキャリア教育の推進につながり、子供たち一人一人が、しっかりと生きていく力をつけていくことを願っています。

東北地区 委員会の記録

●東北地区高等学校PTA連合会 平成27年度第2回進路対策委員会活動報告

宮城県高等学校PTA連合会事務局長
小笠原 朋之

「キャリア教育について、ワークショップ」

平成27年8月7日(金)、仙台ガーデンパレスを会場に宮城県高P連進路対策委員会と合同で研修会を行いました。講師には、NPO法人まなびのたねネットワーク代表理事 伊勢みゆき様をお迎えしました。伊勢みゆき様は、教育ファシリテーション、教育コーディネーションをご専門とし、宮城県内の志教育支援や仙台市自分づくり教育支援等で学校のキャリア教育に携わってこられた経歴を活かし、キャリア教育とは何か、なぜキャリア教育なのかなどについて、事例を紹介しながらお話しされました。

研修は、「今、求められるキャリア教育とは？～一人一人が生きる力をつけるために～」というテーマのもと、参加者20名が4グループに分かれワークショップ形式で話し合いました。参加された方々は、アメリカの心理学者ジョセフとハリーが考案した「ジョハリの窓」に取り組み、キャリア教育でも重視しているコミュニ

ケーション力を高める考え方を学びました。キャリア教育を一概に進路指導ととらえてしまいがちですが、伊勢みゆき様のお話しから、「キャリア教育で大事にしているのは、答えは自分の中にあるということ。まずは自他を知り、認めることが手がかりとなる。志をもって自分の人生をデザインしていくことが、本当の意味でのキャリア(馬車の轍)につながる。周囲の大人は子どもたちに役割を与え、受容と共感の姿勢で接し子どもたちの自己肯定感を高めること、そして子どもたち自身が学習意義と学習意欲を見出すことが大切であること」を学びました。

まだまだキャリア教育に対する理解が深まっていないのが実情ではないか、という思いを抱きつづけてきたところです。参加された方々が今回の研修で得たことを活かし、それぞれの立場から子どもたちの未来づくりのために応援していかれることを願います。



講師 伊勢みゆき様



ワークショップ風景

●東北地区第3回進路対策委員会 研修視察報告

東北地区進路対策委員会
事務局 奈須野 文人(仙台東高校)

平成27年12月15日、宮城県高P連と東北地区高P連の「進路対策委員会」をそれぞれ開催した後に合流し、研修先である「キリンビール(株)仙台工場」へ向かいました。ここは、5年前の東日本大震災時の津波によって甚大な被害のあった場所でした。

今回の研修視察先の選定にあたっては、小笠原県高P連事務局長にある思いがありました。それは、「被災地の今」を進路対策委員会に出席する東北地区の委員の皆さんに見ていただきたい、というものです。

午後3時からの研修は、被災直後に各新聞、各放送局等マス



講演に聴き入る参加者

コミで大きく取り上げられ、被害の程度が伝えられた「キリンビール(株)仙台工場」がたどった4年9ヶ月を、パワーポイントを使った講話と工場内の施設見学で実感できる内容でした。

講話のなかで、震災前から環境問題に取り組んでいたことや震災の被害への対応の様子を詳しく説明していただきましたが、宮城県の我々も初めて知ることが多く、貴重な体験となりました。

なお、今年の7月7、8日に行われる「東北高P連仙台大会」では、7月7日にオブショナルツアーとして「キリンビール(株)仙台工場」見学を中心とした企画を計画しており、東北六県の皆様にも御案内申し上げる予定です。ぜひ揮ってご参加下さい。



津波はむこうから襲ってきた



復興した醸造タンク

編集後記

今年度のリーフレットは、前年度を踏襲して各県の取り組みを紹介し、各県が抱える問題、課題を知っていただくことを目的にしました。

各県の報告を読み、また、今年度2回行われた東北地区の進路対策委員会での協議などを思い出し、近隣の六県ではありませんが、進路指導の問題は、共通の課題に加えて、各県それぞ

れの課題があり、足並みを揃えた取り組みが難しいことを実感しています。

最後に、今回の発行にあたり、御協力をいただきました進路対策委員の方々に感謝申し上げます。

東北地区進路対策委員会事務局校 宮城県仙台東高校PTA事務局長
奈須野 文人